



新館長あいさつ 「埼玉ならではの価値」を調べ、保ち、広める

博物館の仕事と聞いて、多くの皆さんがまずイメージされるのは特別展や企画展などの展示会かもしれません。私たちの博物館も、できるだけ多くのお客様に楽しんでもらえるよう、質が高く魅力的な展示会の企画と運営に日々努めています。

しかし、博物館の仕事はそれだけではありません。まず、当館の専門分野に関わる資料を収集し、調査し、その価値を明らかにしておくこと。そして、収集した貴重な資料が損なわれないよう保存していくこと。これらは、一般のお客様からは見えづらい「水面下の仕事」ですが、博物館本来の重要な使命です。華やかな展示会も、実は、そうした地道な仕事の積み重ねに支えられています。

歴史と民俗の博物館は、これからも資料収集、調査研究、資料保存という博物館の使命をしっかりと

果たす中で、「埼玉ならではの価値」を見出し、広く発信してまいります。

(館長 書上 元博)





奈良時代の靈龜2年(716)、駿河国、甲斐国、相模国、上総国、下総国、常陸国、下野国7ヶ国に暮らしていた1799人の高麗人が、現在の飯能市、日高市及び鶴ヶ島市を中心とする地域に移住し、高麗郡が設置されました。平成28年(2016)年は建郡から1300年を数える節目の年です。

特別展では、考古資料や歴史資料を中心に古代高麗郡の実像を示し、その歴史が現在までどのように語り継がれてきたのかを明らかにします。



舞踊塚舞踊図 (画像提供: 高句麗会)

高麗人の故郷と渡来人の足跡

高麗人たちの故郷、高句麗は、現在の中国北東部吉林省集安周辺から朝鮮半島北部に勢力を広げた国です。4世紀には新羅、百済と並んで三国時代の朝鮮半島を治めていました。最も高句麗が盛隆を誇り、勢力を拡大したのは、広開土王(好太王)の時代です。広開土王の業績は、高句麗王の系譜、王墓の墓守規定とともに息子長寿王によって集安の高さ約6mの石碑に残されています。今回展示する広開土王碑墨本(高麗神社所蔵)は、原石から拓本したものではありませんが、6mを超える巨石に対する人々の関心と興味が詰まった資料といえます。

古墳時代以降、高句麗をはじめ朝鮮半島諸国から、数多くの人々が日本列島へ渡来しました。先進的な知識と技術を携えた彼らの足跡が東国にも残っています。金、銀、金銅製装身具は、5世紀から6世紀にかけて朝鮮半島で発達し、それ以降日本各地に伝来します。川越市牛塚古墳出土金銅製指輪もその一つです。重要文化財の酒巻14号墳出土人物埴輪の様相は、高句麗古墳壁画に描かれた人々に共通します。埴輪と壁画の製作年代には隔たりがありますが、古墳時代における日本列島と朝鮮半島の繋がりを示しています。



酒巻14号墳出土人物埴輪(行田市郷土博物館所蔵)

7世紀になると、『日本書紀』には渡来人の東国移配記事が度々記されます。中でも下野国では、西下谷田遺跡出土の新羅土器や、新羅の影響を受けたとされる日本三古碑の那須国造碑など、記事の内容を示す資料が数多く確認されています。また、上野国多胡郡は、多胡碑の羊や、多胡吉志、吉井連など渡来系氏族の存在、韓科郷など渡来人の郡として置かれたと考えられています。多胡郡建郡から5年後、8世紀前半の政策下で、武蔵国に高麗郡が置かれることになります。

古代高麗郡と高麗郡出身の官人高倉福信

高麗郡建郡に際し、東国7ヶ国の高麗人が移住したとされますが、飯能市堂ノ根遺跡の住居跡から8世紀初めの常陸国産の須恵器が出土し、実際に常陸国から人々が移住したことが証明されています。他にも郡域内では、高麗人の生活や文化を示す、東国での出土例が希少な王神遺跡出土の鳥形硯、郡内3ヶ所の寺院に葺かれた瓦など、貴重な考古資料が出土しており、特別展ではその一端を紹介します。

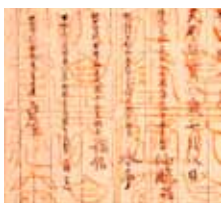


おおでらはいじしゅつどおにかわら
大寺廃寺出土鬼瓦（日高市教育委員会蔵）

高麗郡は律令国家の中心で活躍した人材も輩出しています。中でも高倉福信は、地方出身者としては異例の従三位にまで出世した人物です。福信は81歳で亡くなるまでに武蔵守に3度任命されています。2度目の着任時は、造宮卿（平城宮の造営・修理を司る長官）との兼務でしたが、同時期に武蔵国分寺では平城宮系軒先瓦が採用されており、注目されます。



ほうりゅうじけんもつちょうもこく
法隆寺献物帳模刻（慶應義塾大学文学部古文書室蔵）



(福信自署部分拡大)

高麗若光

高麗若光は、天智5年(666)、高句麗の使者(玄武若光)として来日し、母国の滅亡により列島に留まったとされています。その後大宝3年(703)に「高麗王」姓を賜りますが、以降国史には登場しません。しかし、没後は高麗神社の御祭神として祀られ高麗郡の人々の信仰の対象となりました。また、若光の晩年の姿から高麗神社を白鬚明神と称したとする伝承も残ります。入間川以西には白鬚神社が30社以上所在し、その分布から白鬚明神信仰が高麗神社周辺に限らず、各地域で現在まで受け継がれていることがわかります。

さて、『箱根山縁起 并 序』には若光とされる「和光」



箱根山縁起并序（箱根神社蔵）

の名があります。特別展では、高麗郡建郡記事を記す『相模国鶏足山高麗寺略縁起』と合わせて相模国における若光の足跡も紹介します。

語られる高麗郡・記憶の浮上

高麗郡の古代史は江戸時代後半から、地域のなかで強く意識されるようになります。文政期には江戸幕府が編纂した地誌『新編武蔵風土記稿』で高麗郡の設置や高麗神社・聖天院の神宝・寺宝について述べられ、また同じ頃から地域の村役人層などが歴史研究に取り組み始めます。近代には行政区としての高麗郡は消滅しますが、その歴史は時代状況のなかで、朝鮮半島と日本の歴史的な関係を示すものとして注目され、多くの人々が訪れました。ここでは地域に残る古文書などで、そうした近世・近代における古代高麗郡の「記憶の浮上」をあとづけます。

(展示担当宮原正樹・埼玉県立文書館佐藤美弥)

新収集品展 2014・2015

5月14日（土）から7月3日（日）まで当館季節展示室で「新収集品展 2014・2015」を開催しています。この「新収集品展」は、過去2年間に当館へ寄贈いただいた資料と購入した資料を紹介するものです。

当館は昭和46年（1971）に埼玉県立博物館として開館以来、埼玉県の人々のくらしと文化に関わる歴史・民俗・美術工芸などの資料を積極的に収集・保管し、館有資料の充実を図ってきました。

開館50年となる節目の年を5年後に迎えようとする現在、収蔵資料は12万点を超え、寺社などからお預かりしている寄託資料も含めると膨大な資料数となっています。その収蔵資料は、主に寄贈と購入資料からなり、中でも重要な部分を占めているのが、開館以来300名を超える方々から寄贈いただいた品々となっています。

本年の展示では、平成26・27年度に19名の方から寄贈いただいた16件785点、古書店などから購入した29件64点の資料のうち、歴史資料や古美術資料の優品を公開しています。以下に今回展示している主な資料を御紹介いたします。

紺糸毛引威二枚胴具足（H26年度寄贈）

三河国出身の旗本加藤家に伝来した江戸中期の作と考えられる甲冑で、袖や籠手を欠失しています。同家は、徳川家康の江戸入府に従って比企郡（現在の滑川町羽尾付近）などに領地を得、西の丸御目付、日光奉行等を務めました。



絹本着色 芭蕉翁図（H27年度購入）

江戸時代中期に活躍した漆工・絵師・俳諧師である小川破笠の作となる近世絵画です。破笠は、松尾芭蕉の門下であることから、芭蕉を描いた作例も複数確認されています。本作品は、上空にホトトギスが描かれることから初夏の場面を描いたものとわかります。



武州岩槻城図（H26年度購入）

岩槻城を中心として、写真右下の北西から写真左の南東にかけて天然の要害となる元荒川が、西から南には城下町が色分けして描かれた絵図です。題箋には「武州岩槻大岡主膳正城図」と記され、18世紀半ばの大岡氏統治時代の縄張りを描写したものと考えられます。上部が化粧断ちされていて、凡例の部分が失われています。



おひまちこう
御日待講関連資料8点 (H 27 年度寄贈)

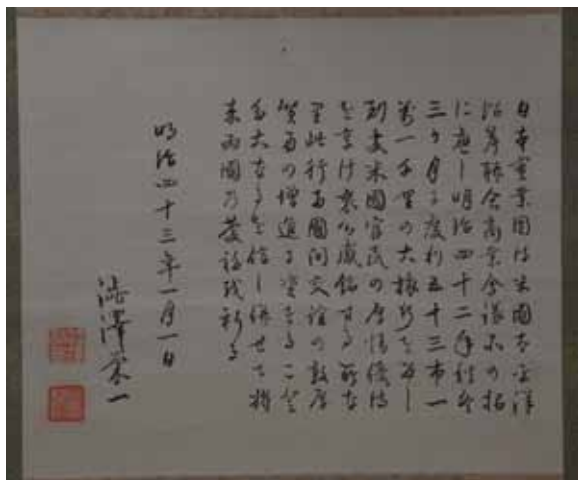


御日待講とは、集落の人々が輪番で決められた当番の家に集まって無病息災などの祈願をしながら日の出を待つ祭事。本資料群は、旧関村（現在の美里町関）不動院

に明治43年（1910）から伝わってきたもので、写真の絵画の他に、袈裟、順番（当番）表などがあります。

とべいじつぎょうだんかんしやぶんそうこう
渡米実業団感謝文草稿 (H 27 年度寄贈)

明治42年（1909）、渋沢栄一を団長とする渡米実業団約50名が、アメリカの太平洋岸から大西洋岸までの25州、60都市を3カ月にわたり視察をしました。帰国した翌年、西陣織の感謝状を商工会議所、学校などの視察先に贈呈しましたが、本資料はその感謝状の草稿とみられます。京都高島屋に製作を依頼した西陣織の感謝状のひとつが、東京都北区にある渋沢史料館に残されています。



日米友情人形交流関係資料2点 (H 27 年度) 寄贈)

写真の「アメリカへ行ったお人形の日記」は、国内で3冊しか現存が確認されていない「幻の本」で、文部省学務局長もつとめた関屋龍吉が記した旅行記です。序文は渋沢栄一の文章で、渋沢史料館に原稿が残されています。他に渋沢がアメリカへ送った答礼人形「ミス東京府」と「ミス栃木県」の2体が1枚に収められた白黒写真があります。



みやざわしょうじ
宮澤章二関係資料680点 (H 27 年度寄贈)

北埼玉郡三田ヶ谷村（現在の羽生市）出身で本県を代表する詩人の一人でもある宮澤章二に関連した資料です。主なものとして、写真の中島飛行機（富士重工業の前身）関係資料や戦前から戦後の刊行パンフレット・絵葉書・徽章類などがあります。文筆活動に関わる直筆原稿等の資料は、桶川市のさいたま文学館へ寄贈されています。



(資料調査・活用担当 中山浩彦)

高句麗の人々と武蔵

みなさんは、高句麗という国をご存じですか？

高句麗は現在の中国東北部から朝鮮半島北部にあった国で、紀元前 37 年の建国と伝えられ、668 年に唐と新羅の連合軍により滅ぼされました。

朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅という 3 つの国が覇権を争い、新羅が 676 年に朝鮮半島を統一するまで、長い間対立する時代が続いていました。

朝鮮半島の動乱は当時の日本と無縁ではなく、日本列島には朝鮮半島から多くの人々が渡ってきました。

東国に関しては、『日本書紀』に、天智天皇 5 年 (666) から持統天皇 4 年 (690) にかけて、朝鮮半島からの渡来人を武蔵・常陸・下毛野などの各地に置いたという記事があります。

その後、霊亀 2 年 (716) になると、武蔵国に高句麗の人々が移住し高麗郡が建てられました。

この高麗郡出身者で、奈良時代から平安時代にかけて活躍した人物に、高麗 (のち、高倉に改姓) 福信という人物がいます。

福信は地方豪族出身者としては異例の出世を果たした人物で、延暦 8 年 (789) に 81 歳で亡くなりました。

『続日本紀』に載る福信の略伝によると、福信の祖父・福德は、高句麗滅亡の際に日本に渡来し、武蔵に住んだと記されています。

逝去した 789 年から逆算すると、福信は 708 年頃に武蔵で生まれ、祖父福德の代から武蔵の地に居住した渡来 3 世であったことがわかります。

また、略伝では、福信は幼少の頃に武蔵国から都にのぼり、都の道辻で同輩と戯れて相撲を取っていたところ、その巧みな技が評判となり、朝廷にまで聞こえて出仕することになったとも伝えています。

まさに高句麗の騎馬民族の血を引き継ぐ福信という人物を、端的に表したエピソードといえるでしょう。

朝廷に出仕してからの福信は、徐々に武官としての才能を発揮し、その後も要職を歴任しましたが、延暦 4 年 (785) に桓武天皇に申し出て、すべての職を退きました。

では、高麗氏一族の中で、福信だけが突出した才能を持った人物だったのかというと、そうではありません。

親族のなかには、漢文学者で現在の大学教授クラスだった人、東大寺で写経や大仏建立に携わった人、遣唐使の一員だった人もいました。

高麗氏一族は武芸だけでなく、漢学や学問、最新の技術、外交にも長けた人物を輩出するような家柄だったのです。

高句麗の血を引く渡来人が、武蔵の地、そして高麗郡の地に住んでいたということは、この地域にどのような影響を及ぼしたのでしょうか。

渡来人の持つ高度な技術、最先端の思想や文化は、この地域の水準を引き上げ、引いては地域の発展に大きく寄与したと考えられています。



高句麗からの渡来人高麗若光を祀る
高麗神社 (日高市)

さて、今夏、当館では、特別展「高麗郡 1300 年一物と語りー」(7 月 16 日～8 月 31 日) を開催します。古代寺院に関する出土遺物、高麗神社の神宝や地域に残る古文書をはじめ、様々な資料を網羅して、高麗建郡の実像と、語り伝えられてきた歴史に迫ります。

普段見ることのできない貴重な資料を多数展示しますので、ぜひこの機会をお見逃しなく！

(企画担当 加藤かな子)

文化財をまもり伝える

埼玉県立歴史と民俗の博物館には約12万点を超える資料が所蔵されており、このうち1,800点あまりが常時展示されています。どれも現在まで大切にまもり伝えられてきた文化財であり、未来に引き続き伝えていくべきものでもあります。それなら収蔵庫の奥にずっとしまっておけばいいじゃないか、と思う方もいらっしゃるかもしれません。ですが、文化財を“伝える”ということは、できるだけ多くの方にご覧いただいてこそのものであり、それは常に後世に語り継いでいくことでもあるのです。

それを体現するのが、ズバリ展示替えです。当館では、所蔵する文化財をできるだけ多くみなさまにご覧いただくために定期的に展示替えが行われています。そして、それは当館の業務の中でも重要な仕事の一つです。学芸員はみな細心の注意を払って取り組んでいます。今回はそんな現場の裏側を、常設展示4室（美術展示室）での展示替えを例に少しだけ



(写真1)

ご紹介いたします。

例えば美術展示の定番である掛軸の取り扱いです。まかり間違っても誰かとおしゃべりをしつつよそ見をしながら扱ってはなりません。展示期間が終わってしまう際は慎重に、髪の毛1本も、息のひ

つつも画面にかからないほどに細心の注意を払って静かに巻き上げていきます。(写真1)

また、新しく展示する掛軸を懸ける際も同様です。軸を懸けるフックに手が届かない場合は「やはず矢筈」という専用の道具を使用して慎重に懸けます。

(写真2)

このように、時には特別な道具を適確に使用しながら、大事に作品を扱っています。それもこれも文化財を常に良い状態でみなさまにご覧いただく（=伝える）ためなのです。



(写真2)

ところで、最近個人的

にイチオシする資料が丸紋散

家嵌燈です（この作品の展示は6月12日までです…。ごめんなさい）。銀の家嵌ぞうがんが施された外側のデザインいちまつのきらめきと、螺鈿らでんと朱漆しゅうしによる内側の市松模様もようがたいへんモダンで美しい逸品です。その美しさをいかにみなさまにお伝えするか、それも学芸員の腕の見せ所です（写真3）。

ライトの当て方一つ変えるだけでも、作品の印象はがらりと変わります。例えば本作品の場合は、漆のつやを照明によってどのように適切に調整するかが難しく、その色合いやかたちを最も美しく見せるための工夫が欠かせません。

文化財をまもり伝えるための学芸員の努力を、その作品が持つ歴史に思いを馳せながら、ぜひ当館に足を運んでその目で確かめてみてください。

(展示担当 西川真理子)



(写真3)

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報(7月～9月)



埼玉県のマスコット
コノドン

■特別展「高麗郡1300年-物と語り-」を、7月16日(土)～8月31日(水)まで開催します。

7月

- 1日(金) 特別体験「藍染めストール作り」
- 2日(土) 特別体験「藍染めストール作り」
裏方探検隊
- 9日(土) 裏方探検隊
- 10日(日) 民俗芸能講習会
- 16日(土) 特別展「高麗郡1300年-物と語り-」
オープン サムルノリの公演
裏方探検隊
- 17日(日) 特別展展示解説、民俗芸能講習会
- 23日(土) 裏方探検隊
- 24日(日) 民俗芸能講習会
- 26日(火) ジュニア博物館講座
歴史展示「医術と好古-小室元長」
オープン
- 30日(土) 特別展記念講演会①、裏方探検隊
- 31日(日) 特別展展示解説、民俗芸能講習会

- 10日(土) 特別展展示解説
- 13日(土) 裏方探検隊
- 14日(日) 納涼映画会、裏方探検隊
- 17日(水) 特別展展示解説
- 20日(土) 特別展記念講演会②、裏方探検隊
- 27日(土) 裏方探検隊
- 28日(日) 特別展展示解説
- 31日(水) 特別展展示解説

8月

- 6日(土) 歴史民俗講座、裏方探検隊
- 7日(日) 民俗芸能講習会

9月

- 3日(土) 裏方探検隊
- 6日(火) 季節展示「都うちわ」オープン
美術展示「詩歌の美」オープン
- 10日(土) 裏方探検隊
- 17日(土) 裏方探検隊
- 24日(土) 民俗工芸実演「都うちわ」
裏方探検隊

※館内消毒のため9月13日(火)は臨時休館

次回特別展

徳川家康—語り継がれる天下人—
平成28年10月15日(土)～11月27日(日)



7月1日(金)から8月31日(水)の間は開館
時間を9:00～17:00に延長します。
(入館は16:30まで)

イベントは事情により変更になる場合があります。
また、事前に申込みが必要なものもありますので、
詳細はお問い合わせください。



交通機関
東武アーバンパークライン(野田線)
大宮公園駅下車徒歩5分

埼玉県立 歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore
(編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890 (管理)
048-645-8171 (学芸)
FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.11-1 (通巻)第31号
2016年6月23日発行